

# Excel 快速 お仕事術

満載!  
業務に役立つ  
実用テクニック



牧村 あきこ  
MAKIMURA, Akiko

第 8 回

## キーワードからシートを検索しよう

### Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:  
Excel 2000/2002

### Level



### Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥EXCELディレクトリに収録しています。

・商品リスト.XLS  
今回のサンプル

\*)「WS\_Search」プロシージャの完成コードは、商品リスト.xlsのモジュール (Module1) に記述してあります。なお、商品リスト.xlsは、そのままでは検索機能が動作しません。動作させるには、以下の作業を行なう必要があります (詳細は本文を参照してください)。

- ①個人用マクロブック (PERSONAL.XLS) のモジュールに、「WS\_Search」プロシージャを記述
- ②個人用マクロブックの「WS\_Search」プロシージャをツールバーに登録



### はじめに

Excelでは、シート内のセルに対して、さまざまな処理が行なえるようになっていますが、意外にシートそのものに対してできることは限られています。シート名の変更やシートのコピー/移動など、人の手に頼った操作が多いことが特徴です。たとえば、セルに含まれている任意の文字列を探そうとすると、Excelに備わっている検索機能が利用できますが、「シート名の中に含まれる文字列を探してシートを特定する」などということは、当然のことながらできません。

そこで、今回は、指定したキーワードを含むシート名を検索し、該当するシートをワンタッチで表示できるようにプログラムをすることにします。また、プログラミングでは、シート名を配列に格納し、配列から条件に一致する要素を取り出

す「Filter関数」を利用するテクニックを紹介することにしましょう。



### プログラムの実行 イメージを確認する

まず、プログラム全体のイメージを整理しましょう。今回は、プログラムとデータを別ファイルに分けて利用する形態をとります。プログラムは、Excelがマクロ管理用に既定で用意するファイル「個人用マクロブック」に保存します。マクロ実行用の新しいツールバーに、作成したマクロを登録して、ツールバーのボタンからプログラムを実行できるようにします (図1)。

図1: ツールバーからプログラムを実行する

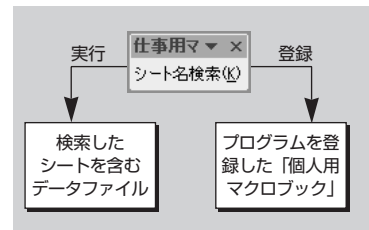
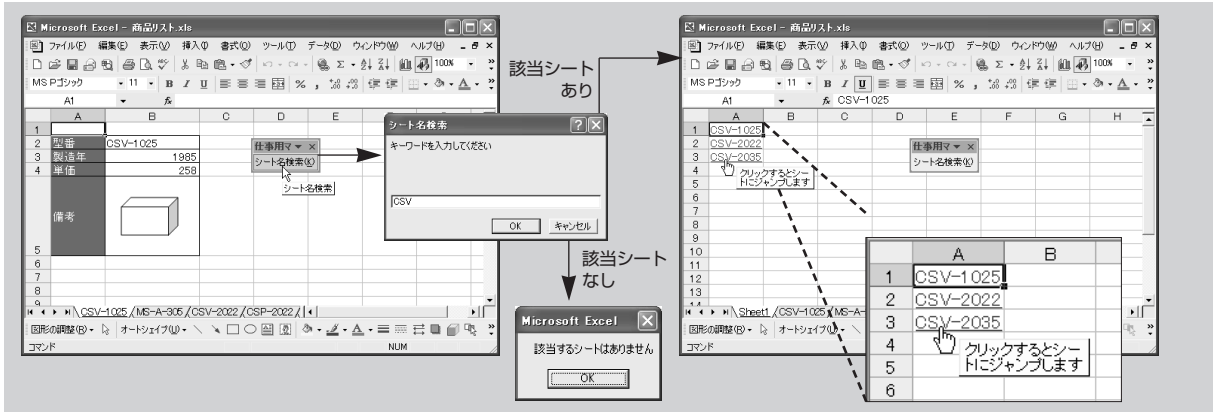


図2：キーワードを入力してシートを検索する



シート検索プログラム「WS\_Search」を実行すると、キーワード入力促すダイアログボックスが表示されます。ここにシート名の中に含まれる文字列を入力して [OK] ボタンをクリックすると、該当シートがない場合には、その旨を記したメッセージを表示します。シートが見つかった場合には、検索対象となるファイルに新規シートを1枚追加し、見つかったシート名すべてをセルに入力します。該当シートを素早く表示できるように、シート名が入力されたセルには、シートへのリンクを設定しました。セルをクリックすると該当シートがアクティブになるようにしたことが、操作上のポイントです (図2)。



## 個人用マクロブックを表示する

前準備として、これまで「個人用マクロブックを使用していない」という場合は、マクロ記録機能を利用して個人用マクロブックを表示させなければなりません。

メニューから [ツール] - [マクロ] - [新しいマクロの記録] を選び、「マクロの記録」ダイアログボックスを開きます。ここで「マクロの保存先」を「個人用マクロブック」に変更し (図3)、[OK] ボタンをクリックしたら、何も操作せずにマクロ記録を終了しましょう。

この操作を行なった後、メニューから [ツール] - [マクロ] - [Visual Basic Editor] を選び、Visual Basic Editor (以下VBE) を起動すると、プロジェクトエクスプローラに「PERSONAL.XLS」という名前のファイル

図3：「マクロの記録」ダイアログボックス

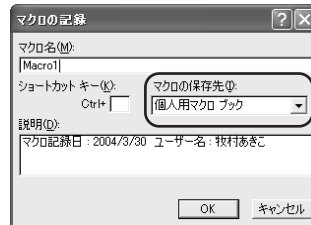
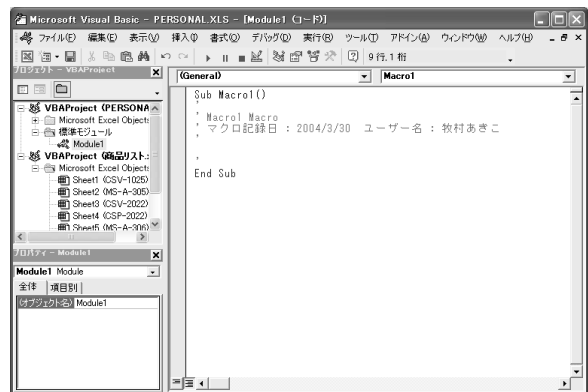


図4：個人用マクロブックのモジュールを表示する



が追加されていることがわかります。このファイルが個人用マクロブックです。さきほど記録したマクロがモジュールに表示されているはずなので (図4)、これを削除してから、シート検索プログラム「WS\_Search」のコードを入力してゆくことにしましょう。



## 既存のファイル名を配列に格納する

では早速プログラミング作業に取り掛かりましょう。